

第8回
出土文化財展



日 時：平成24年6月13日(水)～6月17日(日)

午前9時から午後5時まで

※13日(水)・14日(木)は午後7時まで

場 所：掛川市立中央図書館 1階 生涯学習ホール

掛川市教育委員会 社会教育課

弥生時代後期の集落を発見

ひがしづらいせき

東原遺跡

1. 調査地 掛川市高田
2. 調査原因 茶園の改植
3. 調査面積 374 m²
4. 調査期間 平成 23 年 7 月～平成 23 年 11 月
5. 調査内容

調査では、弥生時代後期（約 1,800 年前）の
堅穴住居跡 15 軒、掘立柱建物跡 3 棟、溝などが
弥生土器が出土した様子

発見されました。堅穴住居跡は 2、3 軒が重なり合っており、何回も建て替えられたことがわかります。堅穴住居跡からは煮炊きした炉、壊れた土器が出土しています。また、堅穴住居の廃棄後に掘られた、幅 1.5m の溝は、南北方向にまっすぐに延び、西へ直角に曲がることから、企画性をもってつくられたものと考えられます。



掘立柱建物跡：人がいる場所が柱穴



直角に曲がる溝

弥生時代後期から古墳時代前期の集落を発見

はやしのせき

林遺跡

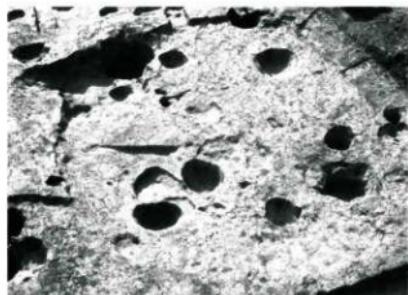
1. 調査地 掛川市吉岡
2. 調査原因 茶園の改植
3. 調査面積 460 m²
4. 調査期間 平成 23 年 11 月～平成 24 年 3 月
5. 調査内容

調査では、弥生時代後期～古墳時代前期（約 1,800～1,700 年前）の堅穴住居跡 4 軒、掘立柱建物跡 2 棟、土器集積穴 1、奈良時代（約 1,300 年前）の小穴などが発見されました。調

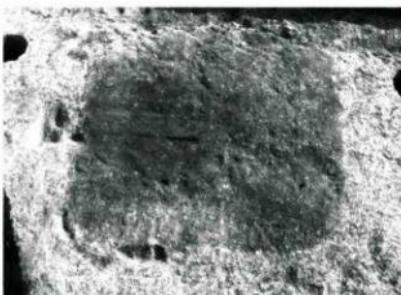


作業風景：土器集積穴

査区の東側では、小穴が集中していましたが、その性格は不明です。堅穴住居跡のうち2軒は1辺が約2.5mの小さなものでした。土器集積穴は、長さ3m、幅2mの大きさの楕円形で、壊れた壺、甕、高坏が数多く出土しました。上器を捨てた穴と考えられます。



弥生時代後期の堅穴住居跡



弥生時代後期の堅穴住居跡：床面の様子

弥生時代中期の集落と墓を発見

めだかいちいせき

女高I遺跡

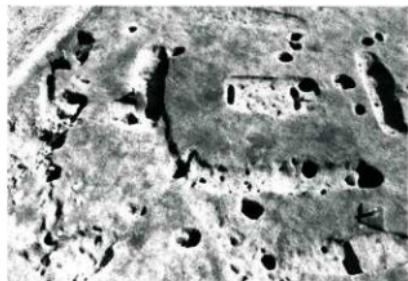
1. 調査地 掛川市吉岡
2. 調査原因 茶園の改植
3. 調査面積 660 m²
4. 調査期間 平成23年11月～平成24年3月
5. 調査内容

調査では、弥生時代中期(約2,000年前)の堅穴住居跡5軒、方形周溝墓4基が発見されました。方形

周溝墓は、土壙(死者を葬った穴)の周囲に四角く溝をめぐらせた墓で、弥生時代に盛んにつくられました。今回調査した方形周溝墓には、土壙の底の両端に細長い穴が掘られていることから、組み合わせ式の木棺が使われたことがわかりました。高田・吉岡地内で弥生時代中期の墓が発見されたのは初めてであり、貴重な資料を得ることができました。



弥生時代中期の方形周溝墓



弥生時代中期の方形周溝墓



土壙(死者を葬った穴)

めずらしいホタテ貝形の前方後円墳
わだおかこふんぐん よしおかおおつかこふん
和田岡古墳群 吉岡大塚古墳

1. 調査地 掛川市高田
2. 調査原因 史跡整備
3. 調査面積 118 m²
4. 調査期間 平成 23年 7月～平成 23年 12月
5. 調査内容

吉岡大塚古墳は、和田岡地区（各和、高田、吉岡）に分布する和田岡古墳群のうち、国史跡



後円部西側トレンチ

に指定された大型古墳 5基のひとつです。茶畑が拡がる段丘上に、こんもりとした高い墳丘が遠くからもよく見えます。和田岡古墳群で 3番目の大きさの全長 55m の前方後円墳で、上から見るとホタテ貝のような形が特徴で、周囲には周溝があります。この古墳がつくられたのは、古墳時代中期（約 1,550 年前）と考えられます。

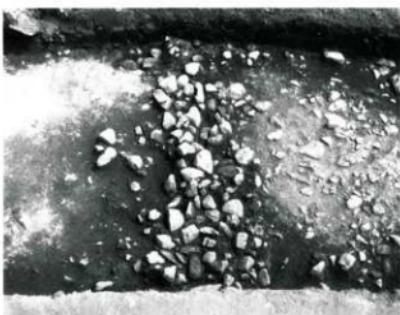
今回の調査では、史跡整備のため、後円部西側、前方部南側、くびれ部（後円部と前方部の接合部分）北側の周溝にトレンチ（試掘溝）を設定しました。後円部西側のトレンチでは、斜面に葺石を確認しました。後円部の中段には、幅 1.5m の墳丘を取り巻くテラス状の平らな部分があり、原位置ではありませんが、円筒埴輪の底部片が出土したため、この部分に埴輪が立てられていたと考えられます。前方部南側のトレンチでは、わずかに残存する墳丘の裾が確認されました。くびれ部北側のトレンチでは、周溝の底が墳丘に向かって傾斜していることがわかりました。また、このトレンチの中央付近からは、幅 0.8m、長さ 2m の範囲で集石を検出しました。出土遺物がないため、この集石の時代や、吉岡大塚古墳に伴うものなのか不明です。



吉岡大塚古墳全景



前方部南側トレンチ



くびれ部北側トレンチの集石

古墳時代後期の横穴を発見

しんでんよこあなぐん ぐん

新田横穴群D群

1. 調査地 掛川市長谷
2. 調査原因 市道の建設
3. 調査面積 1,650 m²
4. 調査期間 平成24年1月～平成24年3月
5. 調査内容

横穴とは、丘陵の斜面に横に穴を掘り、死者を葬る部屋（玄室）にした古墳時代後期（約1,400

～1,300年前）の墓です。調査では、5基の横穴が発見されました。そのうち、4基は燐（きがたま）の造成により入り口や天井が削られており、1基は勾玉や上器が出土しましたが、3基は副葬品などもほとんど残っていませんでした。かろうじて破壊をまぬがれた1基では、横穴の入り口をふさいだ石が残り、玄室内には、こぶし大の石が敷かれ、副葬品である須恵器や鉄製の矢じりなどが発見されました。



土器などが出土した様子



横穴の入り口



調査地全景



高田・吉岡地区の遺跡分布と調査地点

開発予定地内に遺跡はありませんか? 工事計画の前に確認してください。

掛川市内には現在702遺跡が知られており、県内でもいちばん遺跡の多い市だといわれています。遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの“心のふるさと”であり、後世の人たちに伝えていくことが大切です。

そのため、『文化財保護法』により、遺跡のある場所で、土木工事や建築工事、茶園の改植などをする場合には、事前に文化庁に届け出をすることが義務づけられています。

届け出をせずに工事を始めたところ、遺跡が見つかったため調査をすることになり、完成が遅れてしまった——ということがないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会社会教育課にご相談ください。

なお、教育委員会・図書館には、市内にある遺跡の様子を示した『遺跡地図』がありますので、工事を計画する前に必ず確認してください。

掛川市教育委員会 社会教育課 文化財係
電話(0537)21-1158

ここからは、平成 23 年度に整理調査を実施した遺跡を紹介します。

はたかまみねやまいせき

幡鎌峯山遺跡

調査では、縄文時代中期（約 5,000 年前）の小穴、弥生時代後期（約 1,800 年前）の方形周溝墓 1 基、弥生時代後期から古墳時代前期（約 1,800～1,700 年前）の竪穴住居跡 5 軒と掘立柱建物跡 8 棟、古墳時代後期（約 1,350 年前）の竪穴住居跡 1 軒などが発見されました。この調査は、幡鎌池区で初めて実施された発掘調査であり、その結果、原野谷川を望むこの場所が、約 5,000 年前から人々の生活の場であったことがわかりました。



縄文時代中期の土器：幡鎌峯山遺跡
たかだいせき



古墳時代後期の須恵器：幡鎌峯山遺跡

高田遺跡

調査では、弥生時代後期（約 1,800 年前）の竪穴住居跡 10 軒、掘立柱建物跡 1 棟などが発見されました。竪穴住居跡は重なるように発見され、この場所で何回も建てられたことがわかります。



弥生時代後期の土器：高田遺跡



古墳時代前期の土師器：吉岡原遺跡
はじき

よしおかばらいせき

吉岡原遺跡

調査では、弥生時代後期から古墳時代前期（約 1,800～1,700 年前）の竪穴住居跡 12 軒などが発見されました。竪穴住居跡は、上から見た形が、角が丸い長方形、楕円形、四角形のものがありました。出土した古墳時代前期の土器には、壇と呼ばれる壺や伊勢湾岸でつくられはじめた煮炊きに使う台付甕などがあります。



明和 9 年(1722)5 月 21 日(陰曆)、現在の長谷小出ヶ谷
地区において銅鐸一口が発見され、掛川藩に届け出されました。
掛川市教育委員会では、この日を記念して、市民の埋蔵文化財
に対する理解と保護・保存しようとする意識の向上を願い、
出土文化財展を開催しています。



文化財愛護シンボルマーク